

次期「西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画」

第3回 策定委員会

令和6年6月18日（火）

午後6時30分～8時15分

区社協3階 第1・2会議室

出席委員：6名

助言者：大阪成蹊短期大学 幼児教育学科 鈴木准教授

事務局：区役所 保健福祉課岡地担当係長、保健福祉課大里担当係長

区社協 地域支援担当長谷川係長、長谷川大陽

1 あいさつ

A委員長

2 次期計画の策定について

【西淀川の課題・取り組むべきこと】をテーマに、委員が意見を出し合った

(1) 活動者・担い手の減少について

- ・PTAが減少している
- ・あらゆる業界の「働き手」が不足している

→そもそも、出生数が減っており、将来への見通しが懸念される

(2) 情報発信について

- ・定年した世代が、地域の活動場所を知らない
- ・伝えるべき情報はあがるが共通した発信方法がなく、情報を知ってもらうのが難しい
- ・人手不足で広報に注力する余裕がない

→防災・子育て等の必要な情報が必要な人に届かない

(3) つながりについて

- ・高齢者の増加に伴い、入所施設等も増加
 - ↳しかし働き手不足もあり、サービスの低下等もある
 - ↳施設と地域のつながりがあればよい
- ・地域・学校・行政・社協等をつなぐ、コーディネーターが必要

↳支援者側が地域の実情を知らない可能性もある（住んでいない等）

(4) 居場所について

- ・100歳体操、子育てサロン、ふれあい喫茶、高齢者食事サービス等、より多様な世代、地域が入りやすくなればよい（特に、高齢者・子育て世代）
- ・「子ども食堂」が増加しているが、理念・目的・食堂へ期待することが多様であり、食堂にも居場所がない子どもも出てきている

(5) その他

- ・家族の在り方が変容してきている
- ・「障がい」の範囲がわかりづらい（見ただけでわからない等）
- ・外国人と親しくする必要がある
- ・防災対策が必要

→「活動者」「担い手」のイメージが多様化している

→多様な対象へ居場所が求められており、必要とされる居場所が複雑多様化している

3 概要版・個別PR版

【概要版】

(1) 表紙

- ・「西淀川区はこんな“まち”知っていました？」

(2) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の紹介

- ・区民（特に若年者）へのアピール
- ・写真・イラスト・QRコードの活用

(3) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要

- ・基本理念・基本目標・主要な取り組み等

(4) 主要施設配置図、主な相談窓口・連絡先

- ・位置づけ、他の計画との関係、計画期間等

【個別PR版】

(1) 小学生向け

- ・地域福祉とは何か、福祉意識の醸成等
→漫画を活用する

(2) 地域関係者向け

- ・ 主要な取組み（見守り倶楽部、となりのお節介さん、ちょこっと♡助っ人ポイント制度等）への参加促進

(3) 事業者向け

- ・ 各種取組みへの関わり・協力醸成等

(4) 多言語化

- ・ 対象者に沿って内容を検討等

4 あいさつ

鈴木准教授

- ・ 上記意見を受け、以下の5つも念頭に入れることを助言される

- (1) 貧困
- (2) 性認識
- (3) 民間の参入
- (4) 場の活用
- (5) 情報武器